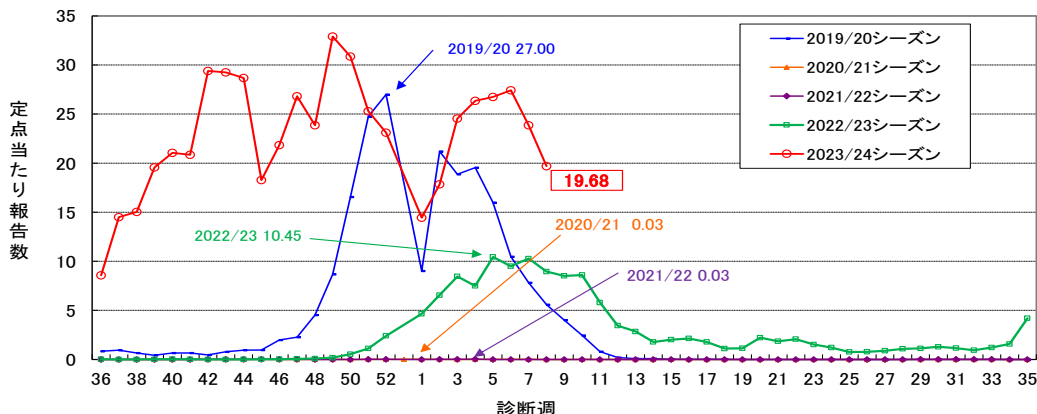


【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

2024年第8週の県全体のインフルエンザの定点当たり報告数は19.68(人)となり、2週連続で減少したものの、過去5シーズンと比較して高い水準となっている(図1)。

図1: 千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数



年齢群別では、2024年第8週に報告のあった計3,976例のうち、10歳未満が1,920例(48.3%)と最も多く、次いで10代1,405例(35.3%)、30代226例(5.7%)であり、20歳未満で患者報告数全体の83.6%を占めた。2024年第2週以降、5～9歳及び10～14歳の患者報告数及び全年齢に占める割合が増加傾向にある(図2)。また、インフルエンザ入院患者報告数の年齢群別推移についても、2024年第2週に報告のあった20例のうち20歳未満が7例(35.0%)に対し、2024年第8週に報告のあった14例のうち20歳未満が10例(71.4%)となっており、全年齢に占める割合が増加傾向にある(図3)。

図2: 2023/24シーズンインフルエンザ診断週・年齢群別報告割合推移

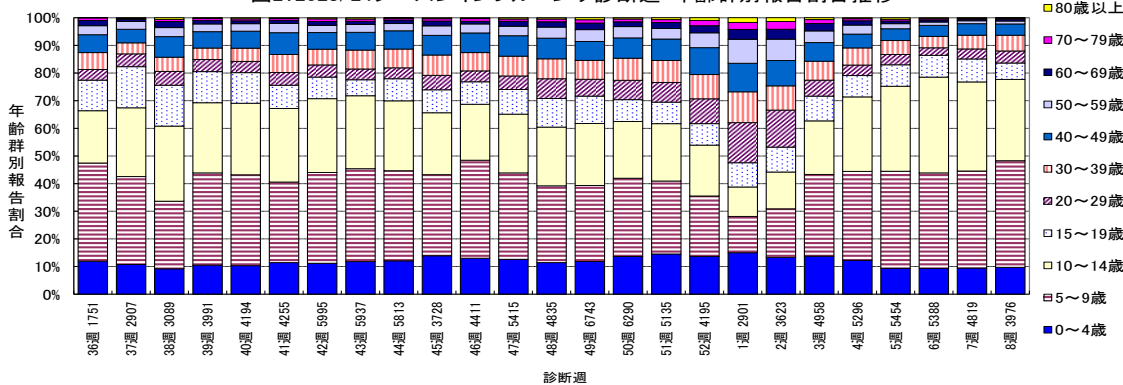
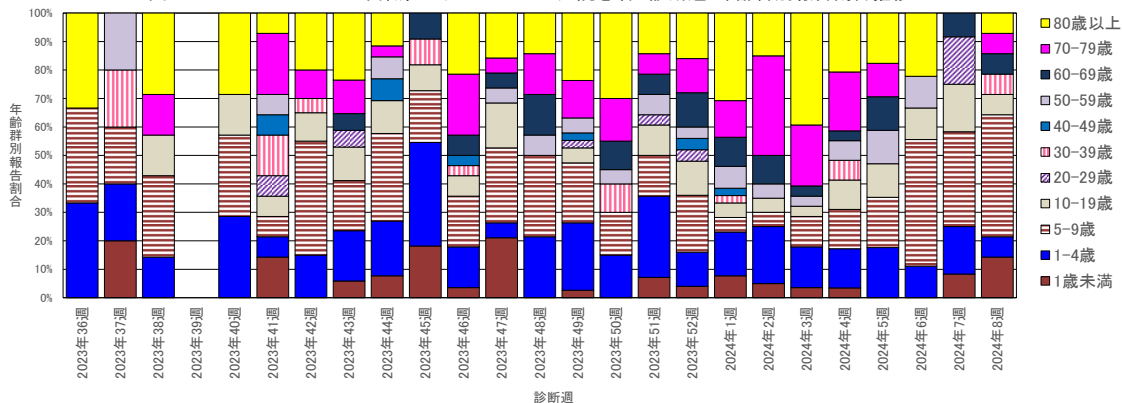


図3: 2023/2024シーズン 千葉県のインフルエンザ入院患者 診断週・年齢群別報告割合推移



2024年第8週に報告のあった計3,976例のうち、3,632例について定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告があった。3,632例中A型360例（9.9%）、B型3,074例（84.6%）、A and B型（A型とB型両方陽性）2例（0.1%）、A or B型（型非鑑別キットで陽性）196例（5.4%）であった。2024年第5週に今シーズン（2023年第36週：2023年9月4日～）で初めてB型の占める割合がA型を上回り、その後もB型の占める割合が大きくなっている（図4）。

図4a: 2023/24シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告数

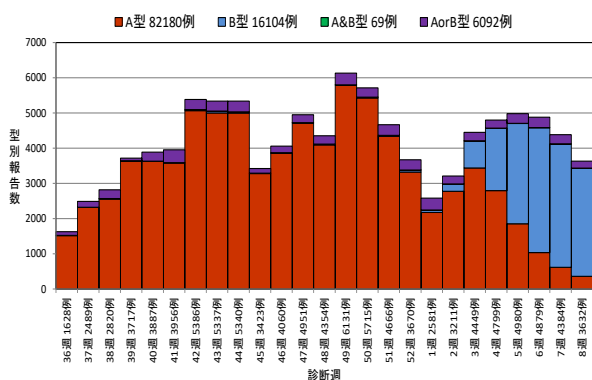
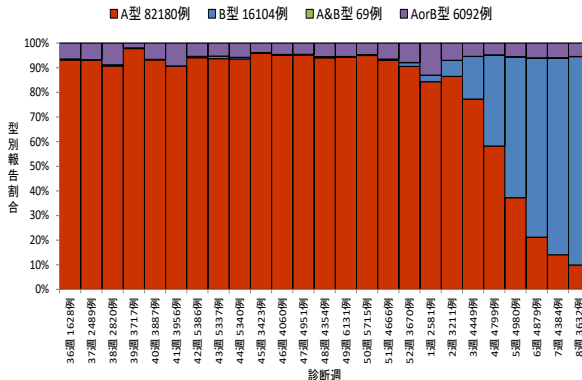


図4b: 2023/24シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告割合



インフルエンザ予防のため、こまめな手洗い、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、室内でのこまめな換気、適度な湿度の保持、予防接種などを心がけていただきたい^{1,2)}。

■参考・引用

- 1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ警報の発令について（令和5年12月13日）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/infulu-keihou2023-3.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザから身を守ろう
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>

【Topics】

《麻しん患者の発生について》

国内で麻しんの届出がありました。海外でも流行しているため、今後の輸入症例や国内伝播事例の増加が懸念されています。厚生労働省は令和6年2月26日付けで事務連絡を発出し、注意喚起をしています。

■参考

- 1)厚生労働省「麻しんの国内外での増加に伴う注意喚起について（再周知）」
<https://www.mhlw.go.jp/content/001214829.pdf>
- 2)厚生労働省「麻しんの国内伝播事例の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）」
<https://www.mhlw.go.jp/content/001214876.pdf>

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2024年第8週の県全体の定点当たり報告数は、前週の12.47人から減少し、8.81人であった。

地域別では、君津（13.08）、柏市（12.31）、市原（11.73）保健所管内で患者報告数が多かった（図）。

図：近直5週間の県内COVID-19定点当たり報告数の推移(保健所別)

